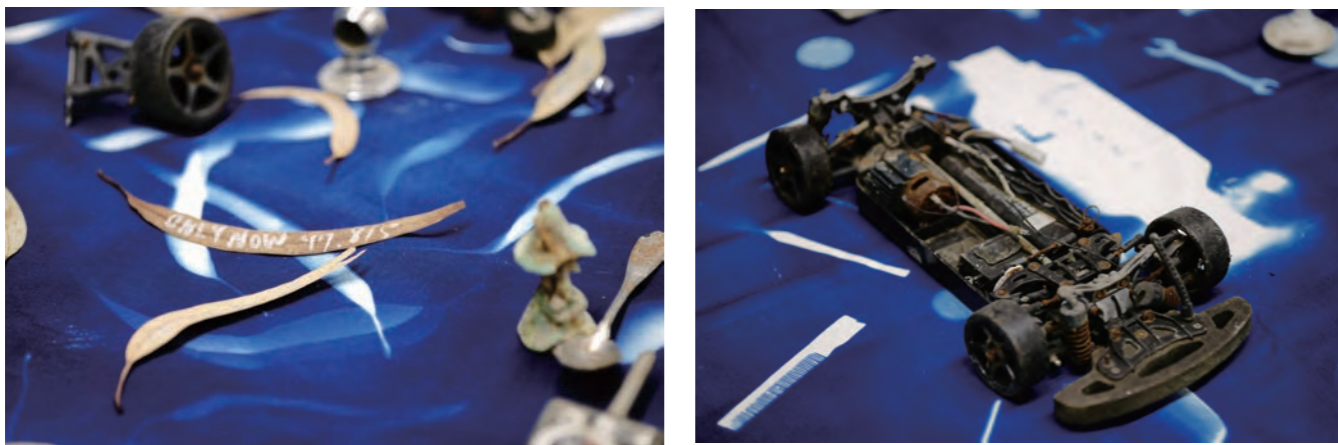




影の部分に合わせて実物のモチーフを配置する展示構成を初めて行った。Cyanotype 2017 年作 450cm×235cm (中央作品)



この『現在の青図 -2017』は 2017 年に群馬県中之条町で開催された中之条ビエンナーレで制作・発表された作品である。サイアノタイプという写真の古典技法を用いて、モチーフを感光布の上に配置し太陽光で焼き付けて制作する。

モチーフは、5500 年前に中之条町の縄文遺跡で発掘された土器をはじめ、埴輪や土偶、養蚕で盛んだった時に使われていた道具を中之条町歴史と民俗の博物館「ミュゼ」の協力の下お借りした。さらに、広島は今も生き続けている被爆樹木の葉、東日本大震災で被害を受けた宮城県名取市閑上地区の遺失物を用いて画面を構成した。それらのつくる影を一つの感光面に焼き付け、「現在」について考えることができる青図を焼きたいと考え制作を行った。

中之条ビエンナーレの後も、作品は展示の形態を変えながら旅を続けている。同じ年の 12 月に東京の木場の「Earth+Gallery」で展示され、ワークショップやパフォーマンスプログラムが行われた。そして 3 回目の展示となる今回の「宝船展 2018」埼玉県立近代美術館での展示を通して、多くの方と作品を通じた交流をすることができた。作品を見て、広島の被爆樹木や閑上のことに興味を持ってくれる人が多数いた。パフォーマンスを会期中 2 日間行ってくださった DamaDamTal の方とは作品を通して、今後にも繋がる密な交流ができた。



「DamaDam Tal」によるパフォーマンスの様子 2018 1/13・14 の 2 日間開催した。